

B 141 花柄のイメージにおよぼす配列と配色の効果  
椋山女学園 大家 政 ○加藤 雪枝 椋山 藤子

目的 被服地には多種多様な模様があり、その中でも花柄は婦人服地を代表する模様である。それらの表現形式には(1)自然の花を基として様式化された模様、(2)花の絵画的、自然的模様、(3)模様が繰り返すことによって構成され、一つの花型の単位が組織的に繰り返される方法等がある。そこで模様が単位の配列により展開される場合、その単位となる花型の種類、繰り返しの配列方法および配色が花柄のイメージにいかに関与するかを多変量解析を用いて解析し、模様の表現形式について検討した。

方法 基本単位の花型を50種収集し、線描画とした。これを類似性判断によりグループ化し、2つの組合せにおいて類似性ありの判断に1点を与えて被験者について集計し、 $e_{ij}$ 型数量化法を用い、特長のある花型を選定した。配列方法は飛び、斜め、充てん、図形配列である。配色方法は $v_2$ 、 $v_8$ 、 $v_{18}$ を基本色とする類似、対照の3色配色であり、地はlt Gy(7.5)と固定した。上記の条件でテレビモニターに模様を示し、形容詞対を用いて評定し、因子分析を行ない、因子得点を外的基準とし、数量化Iにより要因を分析した。

結果 花型の類似性判断の基準には単純・複雑性、具象・抽象性が関係する。繰り返すに規則性のある花模様のイメージは評価、活動、かたさ、現代性の4因子で表現される。花型は評価、活動、現代性の因子に関係し、単純な花型がこれらの因子を高める。配列では飛び配列が評価の因子に影響を与え、充てん配列が活動の因子に貢献する。配色では、 $v_{18}$ を基本色とした類似の配色が評価、活動、現代性の因子を高める。基本色が $v_2$ の対比の配色および花自体の色が $v_{18}$ の場合にはかたさの因子に有効に作用する。